

2023年3月期 第1四半期 決算概要

2022年8月4日
シスメックス株式会社

Index

1. 2023年3月期 第1四半期決算概要
2. 今後の成長に向けた取り組み
3. 2023年3月期 通期業績予想

(補足資料)

- ・地域別実績
- ・会計方針変更の影響

<会計方針変更について>

従来クラウド・コンピューティング契約におけるコンフィギュレーションまたはカスタマイゼーションコストについて、その他の非流動資産を計上しておりましたが、前連結会計年度より2021年4月に公表されたIFRS解釈指針委員会のアジェンダ決定に至る議論を踏まえて、クラウド・コンピューティング契約におけるコンフィギュレーションまたはカスタマイゼーションのサービスを受領したときにそのコストを費用として認識する方法に変更いたしました。それに伴い、2022年3月期第1四半期に遡及処理を行っております。（遡及前と後の比較は補足資料参照）

当社グループは、2017年3月期より国際会計基準（IFRS）を適用し、IFRSに準拠して開示しております。

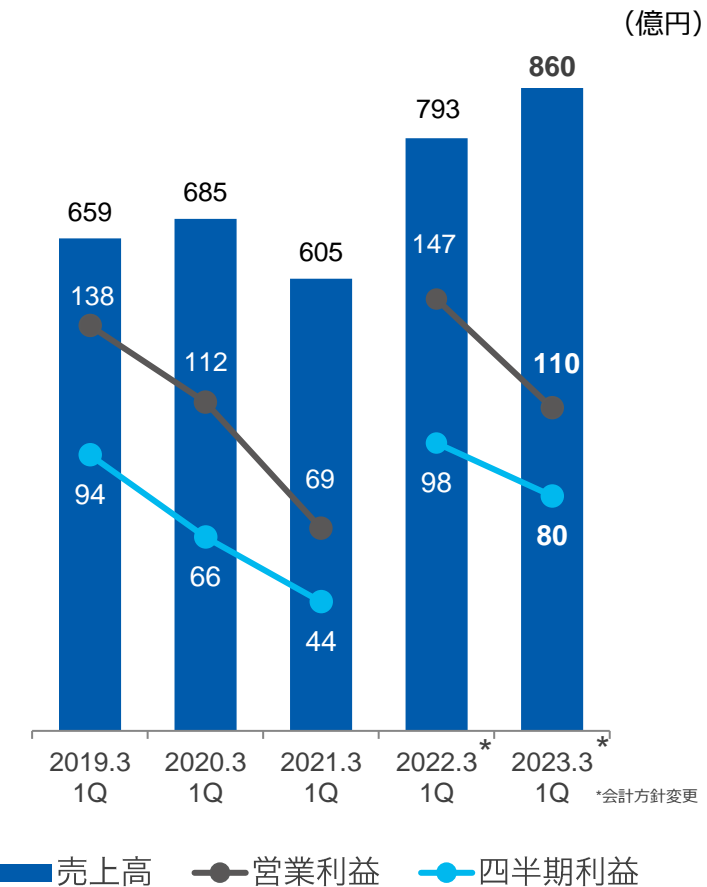
本資料のうち、売上予想等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づき算出しており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化により、実際の業績等が予想数値と大きく異なる可能性があります。

1.

第1四半期 決算概要

決算総括

(億円)	2023年3月期1Q		前年同期		前年同期比	為替の影響	
	実績	構成比	実績	構成比		影響額	前年同期比 (為替影響除く)
売上高	860.2	100%	793.6	100%	108.4%	+76.3	98.8%
売上原価	430.6	50.1%	374.7	47.2%	114.9%	-	-
販売費及び 一般管理費	251.5	29.2%	217.5	27.4%	115.6%	-	-
研究開発費	69.1	8.0%	54.9	6.9%	125.9%	-	-
その他の営業損益	1.6	0.2%	1.6	0.2%	-	-	-
営業利益	110.5	12.8%	147.9	18.6%	74.7%	+19.0	61.8%
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	80.3	9.3%	98.1	12.4%	81.8%	-	-



● 前年同期に対し、増収減益

- ✓ **売上高** : 中国は、ロックダウンによる検査需要減少などで減収も、他地域は全て増収し、加えて円安の影響もあり、増収
- ✓ **営業利益** : 販管費および研究開発費の増加は計画内であるも、生産高の減少や原材料費の高騰による原価率悪化、輸送費および人件費の高騰などもあり、減益
- ✓ **四半期利益** : 為替差損益のプラス効果があるものの、営業利益の減少により、減益

	2023年3月期1Q	前年同期
1USD	129.6円	109.5円
1EUR	138.1円	132.0円
1CNY	19.6円	17.0円

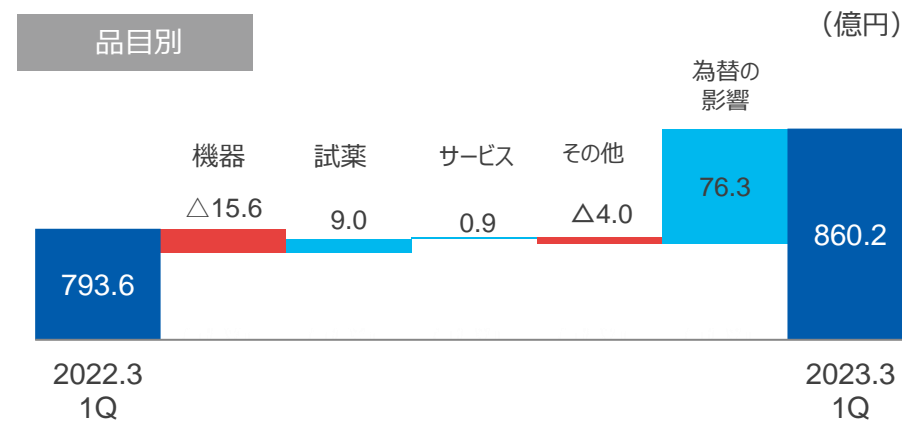
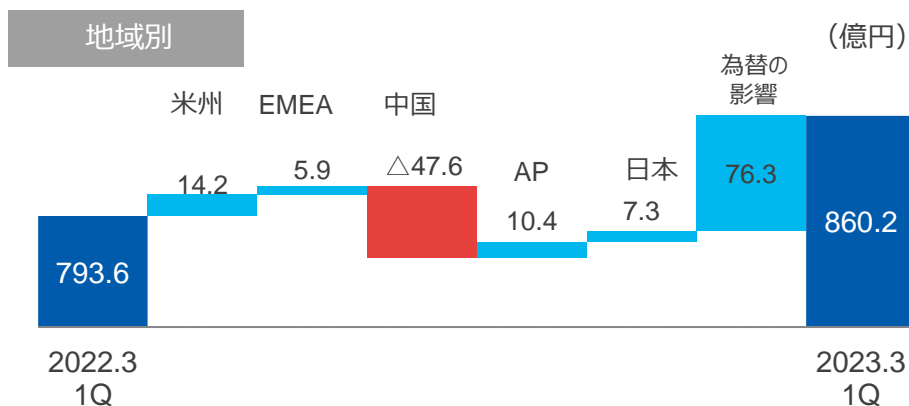
売上高の増減要因（地域別・品目別）



(億円)	2023年3月期 1Q		前年同期比	
	実績	構成比	円ベース	現地通貨ベース
売上高	860.2	100.0%	108.4%	98.8%*
米州	230.9	26.8%	127.2%	107.5%
EMEA	272.5	31.7%	108.0%	103.1%
中国	145.4	16.9%	83.8%	72.6%
AP	81.7	9.5%	128.4%	116.5%*
日本	129.6	15.1%	106.0%	-
機器	191.5	22.3%	100.7%	91.8%*
試薬	521.9	60.7%	111.6%	101.9%*
サービス	118.5	13.8%	112.7%	100.9%*
その他	28.2	3.3%	93.0%	86.7%*

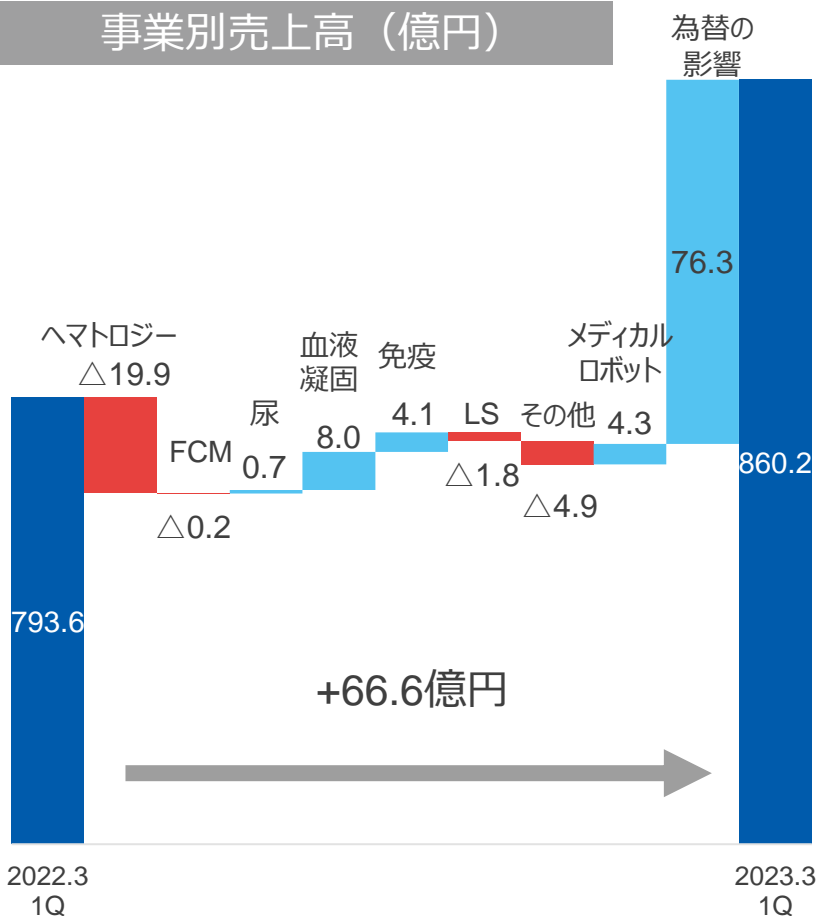
*為替の影響を除いた円貨ベースの前年同期比伸長率

- 米州 : 北米尿分野の試薬伸長および北米・中南米のヘマトロジー分野の機器売上の伸長などにより、増収
- EMEA : 前年同期の大型案件による当期機器売上減少があるも、機器設置台数増加による試薬売上の伸長により、増収
- 中国 : ロックダウンの影響などにより、機器、試薬とも減収
- AP : 検査需要回復による試薬売上の伸長およびインドを中心に機器が伸長し、増収
- 日本 : 血液凝固・免疫分野を中心に試薬売上の伸長およびメディカルロボット事業が伸長し、増収



売上高の増減要因（事業別）

事業別売上高（億円）



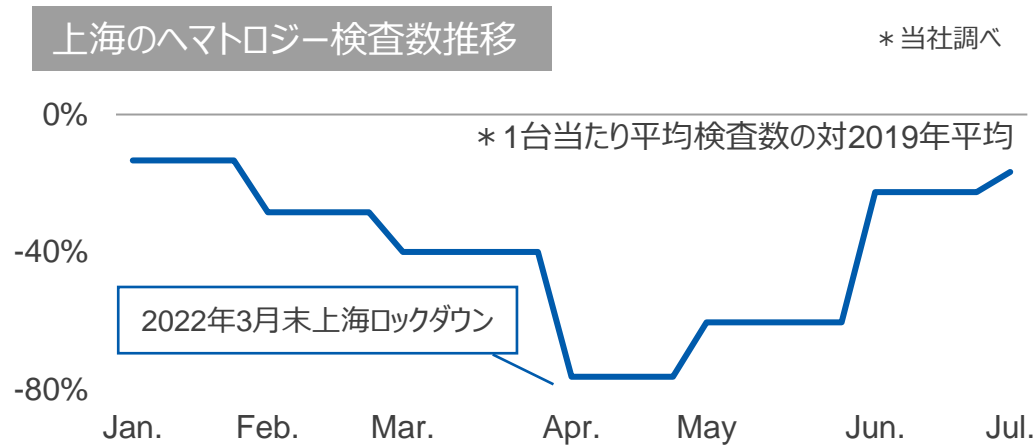
中国のロックダウンの影響でヘマトロジー分野は減収するも、円安効果もあり、円ベースでは主要分野はすべて、増収

(億円)	2023年3月期1Q		前年同期比	
	実績	構成比	円ベース	為替影響を除く
売上高	860.2	100.0%	108.4%	98.8%
ヘマトロジー	517.2	60.1%	106.1%	95.9%
FCM	4.9	0.6%	103.8%	95.7%
尿	68.3	7.9%	113.1%	101.3%
血液凝固	136.4	15.9%	118.0%	107.0%
免疫	42.6	5.0%	118.0%	111.4%
生化学	8.0	0.9%	114.3%	105.5%
ライフサイエンス	40.6	4.7%	99.7%	95.4%
その他	36.8	4.3%	90.8%	86.9%
ダイアグノスティクス事業	855.2	99.4%	107.9%	98.2%
メディカルロボット事業	5.0	0.6%	702.2%	702.2%

COVID関連検査（ライフサイエンスと免疫およびその他に含まれる）
 2023.3期1Q：10.4億円（国内8.6億円、海外1.8億円）
 対前年比：52%（△9.5億円）
 （参考）2022.3期通期：82億円
 2022.3期4Q単：27億円

中国の状況（中長期成長市場の一時的な鈍化）

① ロックダウンの影響



1Q当社試薬売上（全分野）への影響

- 上海では、4月に最大約80%減少し、その後回復傾向
- 中国各地で同様のロックダウンが大小異なる時期に発生
- 中国全体では、1Qに約20%検査数が減少（当社調べ）
⇒ 1Qの当社試薬需要の消失：推定約30億円
- 2Q以降は回復基調

② ヘマトロジー市場の状況

* 当社調べ

2021年 機器設置台数 (当社 + 他社)	<ul style="list-style-type: none"> • 2021年は対前年 6～7%減少 (3級は横ばい、2級は約16%減少) • 当社の3級累計設置台数は約3%増加
市場成長率 (機器 + 試薬)	<ul style="list-style-type: none"> • 2021年は対前年約16%の成長 (2020年度検査数減少からの回復を含む) • 2021～2023のCAGRは3～4%の成長見込み

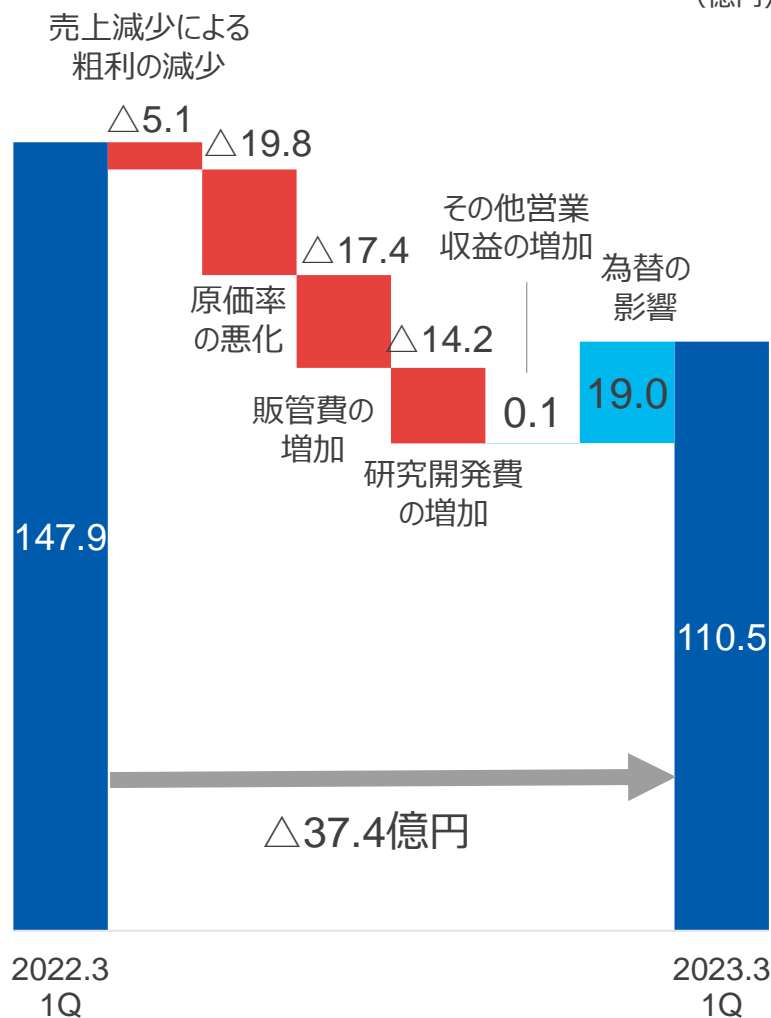
1Q当社機器売上（全分野）への影響

- 低調な中国経済およびCOVID-19再拡大による感染症対策への予算配分による機器売上への影響は継続
⇒ 1Qの当社機器売上へのマイナス影響：推定約15億円
- 政府調達方針によるローカル企業有利の状況は継続
⇒ 当社は現地生産品目拡大により対応
 - 尿分野のUF-3000は4月より本格販売開始
 - ヘマトロジー分野の搬送システムと塗抹標本作成装置SP-50を下期に上市予定
 - 更なる品目追加を推進

営業利益の増減要因

営業利益

(億円)



※下記数値・コメントは為替の影響を除く

- 売上減少による粗利の減少：5.1億円
- 原価率悪化による影響：19.8億円（2.5pt悪化）
 - ・ 試薬構成比率増加による改善はあるも、生産高減少や原材料費および輸送費の高騰、さらには物価や人件費高騰によるサービスコスト増加により、悪化
- 販売管理費の増加：17.4億円
 - ・ COVID-19による活動制限からの活動再開に伴う増加
 - ・ デジタル化投資や直販体制強化は計画どおり
 - ・ 欧州などの人件費の高騰はあるものの、販管費全体は計画内にコントロール
- 研究開発費の増加：14.2億円
 - ・ 製品開発への継続投資および薬事関連費用による増加は計画内にコントロール
- その他営業収益の増加：0.1億円
- 為替の影響：19.0億円のプラス影響

2.

今後の成長に向けた取り組み

2023.3月期における各地域の取り組み

米州	<ul style="list-style-type: none">北米：前年度シーメンス社から移管した尿定性と当社の尿沈渣による尿検査システムの販売は好調新たな搬送システム（BT-50など）の上市によるヘマトロジー分野の伸長を予定ブラジル：昨年度ロシュ社から移管したヘマトロジー分野の中下位市場ビジネスは好調
EMEA	<ul style="list-style-type: none">スペイン・ポルトガル：前年度直販化し、堅調に推移サウジアラビア：2022年2月に現地法人を設立し直販開始、今期の伸長を予定医療インフラ強化に伴う投資案件も継続
中国	<ul style="list-style-type: none">上海代理店問題：5つの新代理店に切り換え完了、市場環境の影響は受けているが中国への生産移管などの活動は順調に進捗ノックダウン生産の拡大（ヘマトロジーの搬送システム、塗抹標本、尿沈査機器）
AP	<ul style="list-style-type: none">COVID-19の行動制限の緩和による一般検査需要の回復2019年4月より直販を開始したインドの高成長 ※インドの生産体制強化（新工場設立）を検討
日本	<ul style="list-style-type: none">世界に先駆け導入したヘマトロジー新製品（XR™シリーズおよび搬送システム）と手術支援ロボット hinotori™の販売が順調に推移感染再拡大により、COVID-19関連検査の需要継続

ヘマトロジーシステム「XRシリーズ」の進化



XRと周辺モジュールの接続イメージ

BT-50 : バーコードターミナル

- **世界初の精度管理自動測定機能**
- 自動スタートアップ・精度管理
- 自動洗浄・シャットダウンが可能
- 採血管バーコードラベル読み取り、採血管到着確認

- 日本 : XRシリーズの新モジュールとして、精度管理を完全自動化するBT-50を1Qに販売開始
- 米州 : XRシリーズは2025年3月期販売予定であるが、2023年3月期3QよりBT-50をXN™シリーズへ追加モジュールとして販売予定（7月のAACC学会にて発表済）
- EMEA : 2023年3月期4QよりXRシリーズ（BT-50含む）を販売開始予定
- AP : 2023年3月期中の販売予定であるが、COVID-19により薬事審査が長期化しており、時期は流動的

① 手術支援ロボット (hinotori)

- 1Qで新たに3台導入、累計導入台数は21台、顧客評価は良好
- 診療科拡大（消化器科、婦人科）を21年10月末に申請し、審査中
- 海外展開は、米国、欧州、APにて薬事申請を準備中



② アルツハイマー検査（血清中のアミロイドβを測定する検査）

- 2021年12月に日本のPMDAに薬事申請し、当局による審査中
- 2022年6月に欧州IVD指令の自己宣言を完了
- 米国におけるLDT（Laboratory Developed Test）による導入を準備中

③ アストレゴ社の買収（尿路感染症の薬剤感受性検査システム）

- 2022年5月に完全子会社化したスウェーデンのアストレゴ社が開発・製品化を推進
- 社会的な課題である細菌のAMR（薬剤耐性）対策に貢献
 - ※従来数日を要した検査が1時間以内で可能な画期的な検査システム
- 2022年3月に欧州IVD指令の自己宣言を完了
- 欧州のKOL（キーオピニオンリーダー）における評価やデータ収集を経て、次年度本格的な市場導入を進めるべく活動中
- KOLや顧客の期待は非常に高く、評価は良好



薬剤感受性検査の
機器および試薬カートリッジ

① 社内DX

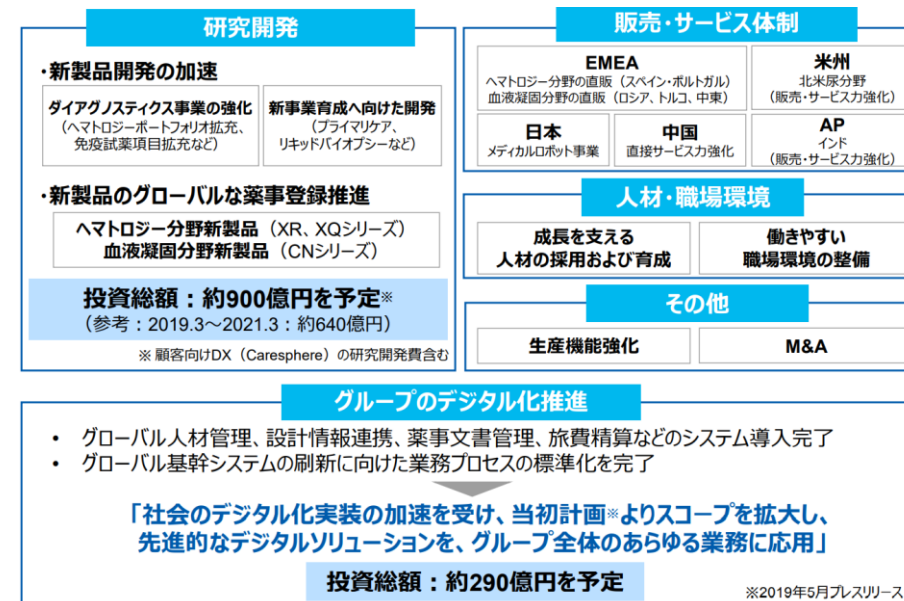
- グループ全体のほぼ全てのシステムの刷新を推進
- 業務の標準化と情報のシームレス化を図り、グループ全体の業務効率化やマネジメントレベルを大幅に向上
- 人材マネジメント、購買、生産、CRMなどの個別システムは稼働済
- 基幹系システムのERPは先行するAP地域において7月稼働済（現在、他地域への導入プロジェクトを推進中）
- 開発業務含む統合製品ライフサイクルマネジメントシステムも導入プロジェクトを推進中
- 社内DXは2024年3月期中に完了予定であり、各種業務効率の大幅な向上に加え、生産・SCM領域中心にコスト低減を実現

② 顧客向けDX

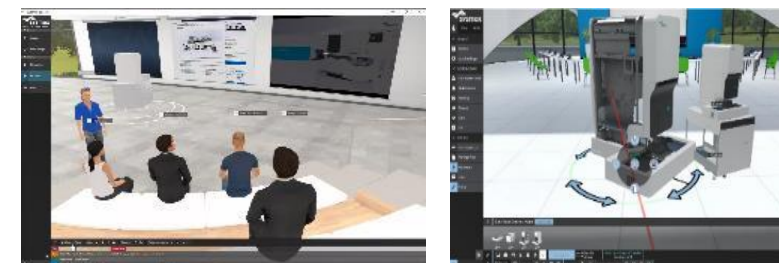
- Caresphere™ブランドのもと、新たなソリューションを展開
- 1999年に導入したSNCSによる精度管理サービスはCaresphere XQCとして刷新済
- XRの導入に合わせ、デジタルトレーニングシステムCaresphere Academyを導入済
- アバターを活用した最新のトレーニングにより質の向上および効率化を促進
- Caresphereのプラットフォーム上で更なる価値を追加

中期期間中の主な投資案件

2021年5月発表資料より抜粋



Caresphere Academy(イメージ)



3.

通期業績予想

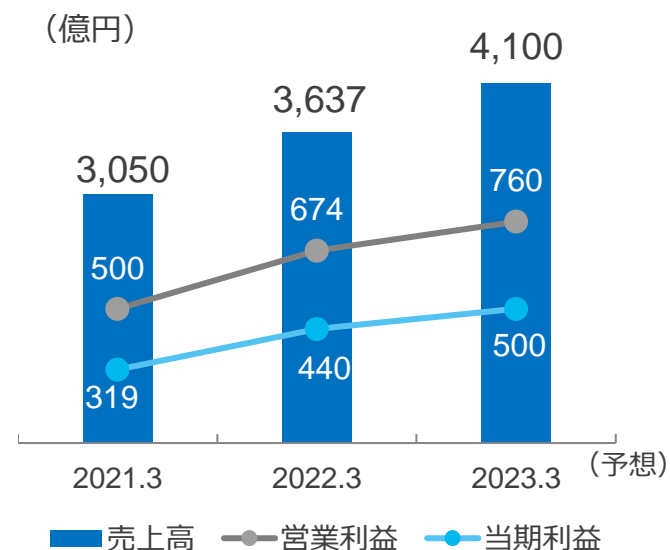
連結 通期業績予想 (2022年5月公表から変更なし)

(億円)	2023年3月期		2022年3月期		伸長率
	予想	構成比	実績	構成比	
売上高	4,100	100.0%	3,637	100.0%	+12.7%
販売管理費	1,130	27.6%	942	25.9%	+19.9%
研究開発費	335	8.2%	267	7.4%	+25.1%
営業利益	760	18.5%	674	18.5%	+12.7%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	500	12.2%	440	12.1%	+13.4%

投資計画

設備投資 418億円

減価償却費 325億円



● 想定為替レート (年間)

	2023年3月期	前期実績 (22年3月期)
1 USD	120.0円	112.4円
1 EUR	130.0円	130.6円
1 CNY	18.0円	17.5円

● 為替感応度の概算値

	売上 (年間)	営業利益 (年間)
USD	7.8億円	1.7億円
EUR	5.6億円	1.6億円
CNY	57.9億円	40.4億円

● 売上高

- 米州、EMEA、AP、日本は、好調に推移しており、各地域の販売施策などにより中国業績を補い、グループ業績達成を目指す
- 中国においては現地生産品目増加による機器売上の回復に加え、厳しい環境の影響が最小限になるよう販売施策を推進

● 営業利益

- 原材料費の高騰は継続見込みも、売上回復に伴う増産効果などにより、原価率を改善
- 将来の成長への投資および輸送費や人件費の高騰はあるものの、販管費等を適切にコントロール

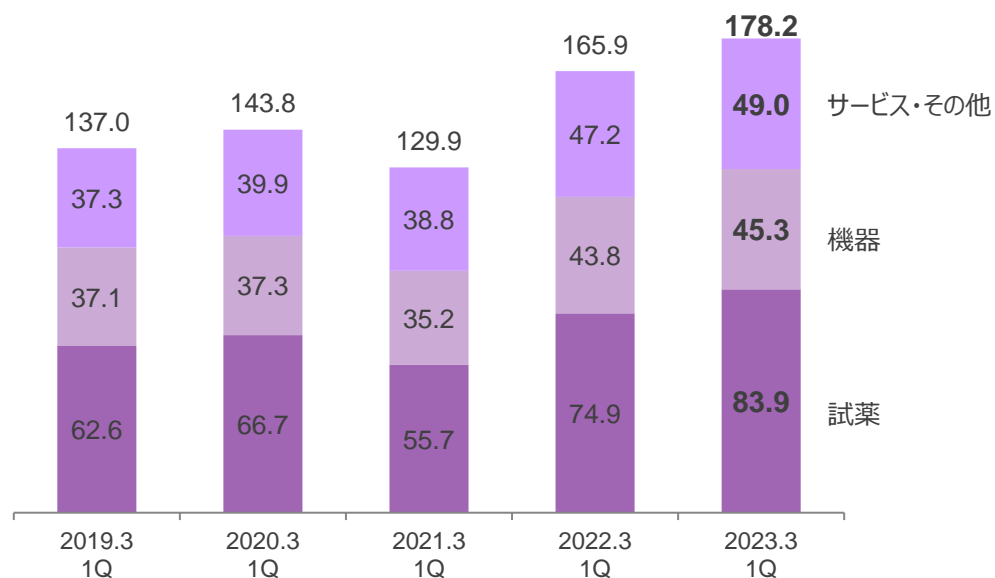
厳しい環境は続くものの、ヘルスケア市場は様々なチャンスが見込まれるため、既に取り組んでいる施策の効果を最大化することで、通期業績の達成を見込む

(補足資料)

米州 (地域別)

(Million USD)	2023年3月期	前年同期	前年同期比	
	1Q		現地通貨ベース	円ベース
売上高	178.2	165.9	107.5%	127.2%
機器	45.3	43.8	103.6%	122.6%
試薬	83.9	74.9	112.0%	132.5%
サービス・その他	49.0	47.2	103.8%	122.9%

売上高推移 (Million USD)



北米、中南米ともヘマトロジー分野が好調に推移したことに加え、前年に引き続き、北米における尿分野の伸長もあり、増収

● 機器

- ✓ 北米、中南米ともヘマトロジー分野が伸長
- ✓ 尿分野において、北米でのシーメンス社との協業による伸長の他、中南米も好調に推移

● 試薬

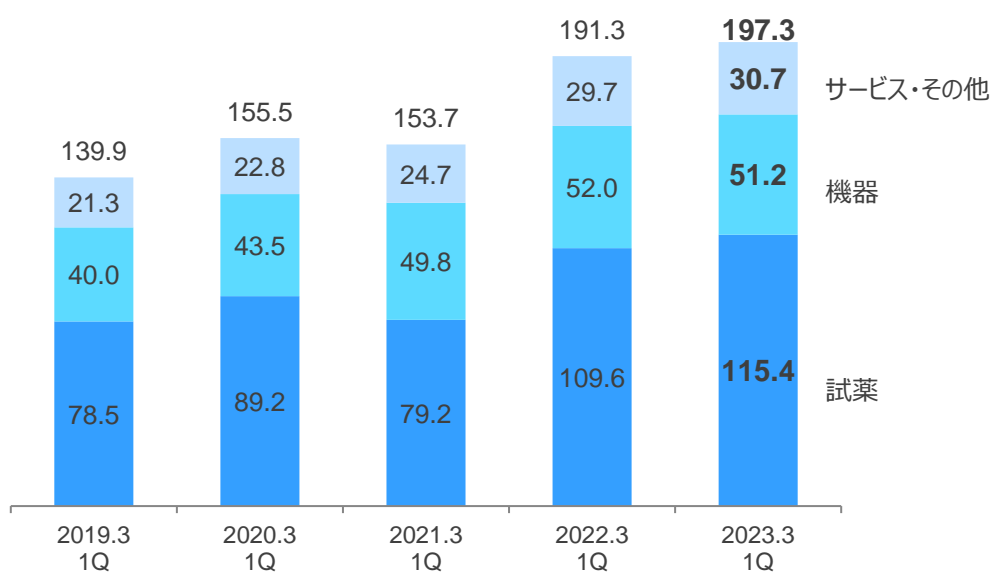
- ✓ ヘマトロジー分野において、機器設置台数の増加に加え、ブラジルの販売体制変更により、好調に推移
- ✓ 尿分野において、北米におけるシーメンス社の顧客移管および機器設置台数の増加により、大幅伸長

EMEA (地域別)

(Million EUR)	2023年3月期	前年同期	前年同期比	
	1Q		現地通貨ベース	円ベース
売上高	197.3	191.3	103.1%	108.0%
機器	51.2	52.0	98.5%	103.0%
試薬	115.4	109.6	105.2%	110.2%
サービス・その他	30.7	29.7	103.6%	108.5%

好調であった前年同期の影響などにより機器売上が減収するも、機器設置台数の増加に伴う試薬売上が伸長し、増収

売上高推移 (Million EUR)



● 機器

- ✓ ヘマトロジー分野において、スペインを中心に直販エリアが好調に推移するも、前年同期の大型案件の影響などにより、減収
- ✓ イタリアを中心に尿分野が伸長した他、シーメンス向けの販売が好調に推移した血液凝固分野が伸長

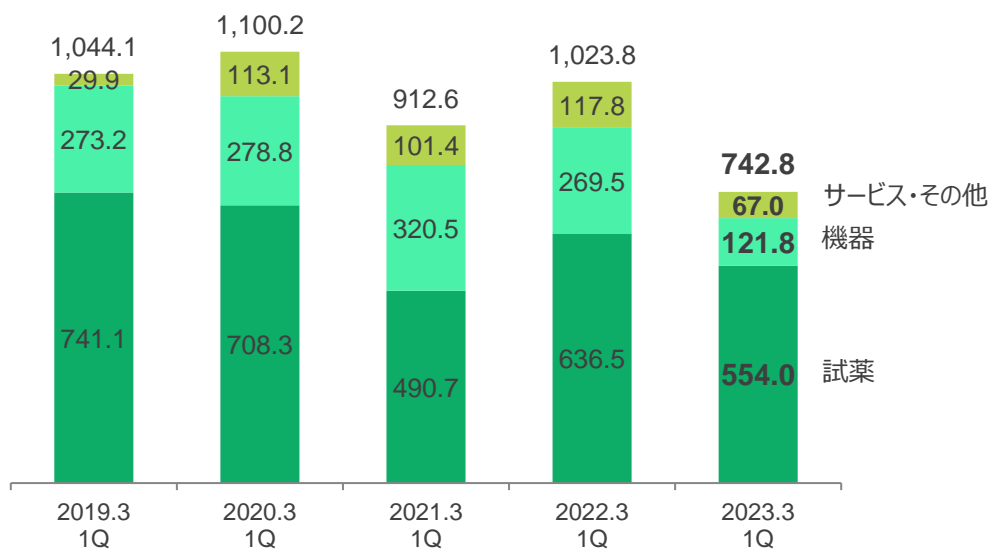
● 試薬

- ✓ 機器設置台数の増加により、ヘマトロジー・尿・血液凝固分野を中心に伸長
- ✓ COVID-19関連検査の需要は減少基調

中国（地域別）

(Million CNY)	2023年3月期	前年同期	前年同期比	
	1Q		現地通貨ベース	円ベース
売上高	742.8	1,023.8	72.6%	83.8%
機器	121.8	269.5	45.2%	52.2%
試薬	554.0	636.5	87.0%	100.5%
サービス・その他	67.0	117.8	56.9%	65.7%

売上高推移 (Million CNY)



前年度末からのロックダウンの影響などにより、機器・試薬とも、大幅に減収

● 機器

✓ ロックダウンの影響に加え、政府調達方針の影響（海外製品の購入延期）により、全分野で減収

● 試薬

✓ 血液凝固分野が伸長するも、大規模ロックダウンの影響により検査需要が減少し、減収

(億円)	2023年3月期 1Q	前年同期	前年同期比 円ベース
売上高	81.7	63.6	128.4% (116.5%)
機器	19.6	12.3	159.2%
試薬	55.0	45.6	120.5%
サービス・その他	7.0	5.6	124.6%

検査需要の回復による試薬売上の伸長に加え、インドやオーストラリアを中心に機器売上が伸長し、2桁増収

● 機器

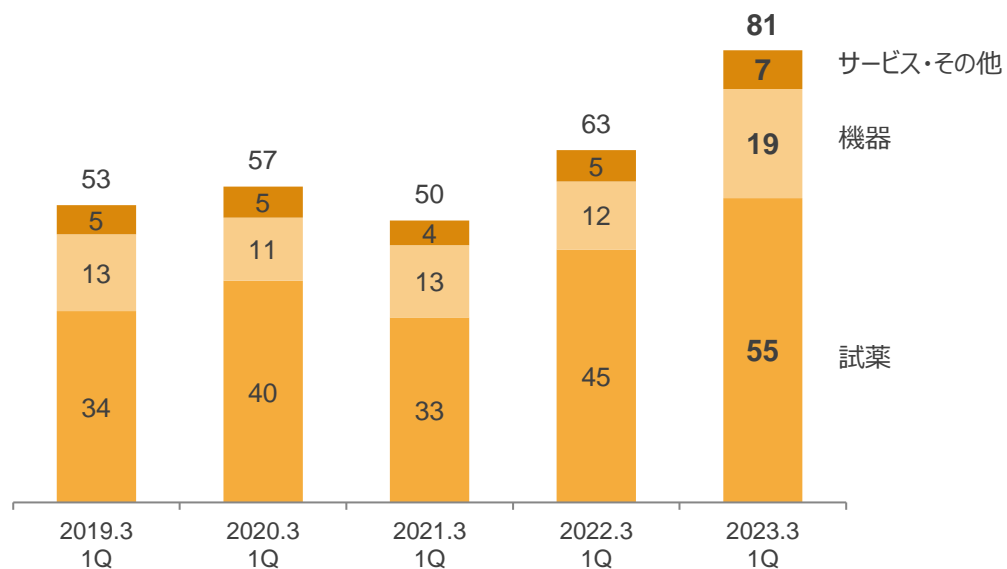
- ✓ インドやオーストラリアなどにおいて、ヘマトロジー分野が好調に推移
- ✓ 医療インフラ投資に伴い、尿・血液凝固・免疫分野においても販売機会を獲得し、伸長

● 試薬

- ✓ 検査需要回復により、ヘマトロジー・尿分野を中心に、好調に推移
- ✓ 免疫分野においては、ベトナム、フィリピン、韓国で伸長

売上高推移 (億円)

*()は為替の影響を除いた場合



（億円）	2023年3月期 1Q	前年同期	前年同期比 円ベース
売上高	129.6	122.2	106.0%
ダイアグノスティクス事業	124.5	121.5	102.5%
機器	14.2	15.1	93.9%
試薬	90.4	87.5	103.3%
サービス・その他	19.9	18.8	105.8%
メディカルロボット事業	5.0	0.7	702.2%

前年同期の反動によりダイアグノスティクス事業の機器は減収も、試薬売上やメディカルロボット事業の伸長により、増収

ダイアグノスティクス事業

● 機器

- ✓ XRシリーズの導入が好調なヘマトロジー分野や免疫分野を中心に伸長
- ✓ COVID-19関連検査需要の減少により、ライフサイエンス分野が大幅減収

● 試薬

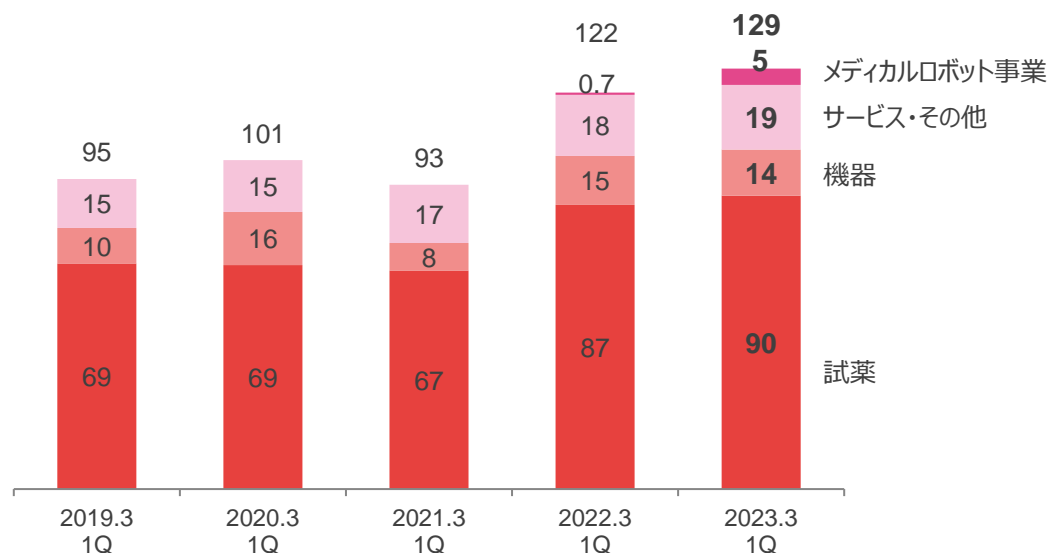
- ✓ COVID-19関連検査は減少するも、血液凝固・免疫分野で既存項目を中心に伸長し、増収

メディカルロボット事業

- 今期3台を新たに導入し、累計導入台数21台*

※販売スキームにより、売上計上の額や時期および期間が様々であり、導入台数と売上高は比例いたしません。

売上高推移（億円）



会計方針変更の影響（2022年3月期 第1四半期）

クラウド・コンピューティング契約におけるコンフィギュレーションまたはカスタマイゼーションのコストについて、「その他の非流動資産」の計上から、サービスを受領したときに「販管費」として計上する方法へ変更し、2022年3月期に遡及適用。

(億円)	2022年3月期1Q (遡及前)		2022年3月期1Q (遡及後)	
		構成比		構成比
売上高	793.6	100%	793.6	100%
売上原価	374.7	47.2%	374.7	47.2%
販売費及び 一般管理費	215.0	27.1%	217.5	27.4%
研究開発費	54.9	6.9%	54.9	6.9%
その他営業損益	1.6	0.2%	1.6	0.2%
営業利益	150.5	19.0%	147.9	18.6%
親会社の所有者に 帰属する四半期利益	99.9	12.6%	98.1	12.4%

Lighting the way **with diagnostics**